

第16回

繁栄する西アジア・中東の都市

監修・講師
羽田 正

学習のねらい

16～17世紀に西アジア・中東を中心に広大な領域を支配したムスリム（イスラーム教徒）を君主とする王朝の歴史とこれらの王朝の下での都市の繁栄と文化について学ぶ。オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国という3つのムスリム王朝の政治と都市社会の特徴を知り、これらの王朝が繁栄した理由を探る。また、これらの王朝の下で花開いたイスラーム文化の豊かさを確認し、その特徴を知る。

＜オスマン帝国の発展＞

メフメト2世 イスタンブル 聖ソフィア聖堂

＜イスラームの文化＞

モスク ミナレット（尖塔） アラベスク 書道

＜ムスリムの諸国家＞

サファヴィー朝 イスファハーン ムガル帝国 アクバル

■ ■ ■ オスマン帝国の発展 ■ ■ ■

13世紀末にアナトリアで生まれたオスマン帝国は、1453年に**メフメト2世**の指揮下、ビザンツ帝国の都コンスタンティノープルを征服し、ビザンツ帝国は滅亡した。6世紀にユスティニアヌス1世によって建設された**聖ソフィア聖堂**はイスラーム教のモスクとされたが、ギリシア正教徒も含め多くの住民が周辺から呼び寄せられ、**イスタンブル**とも呼ばれた町は再建され、多様な人々が居住し大いに繁栄した。なお、征服によって町の名前がイスタンブルに変えられたという説があるが、それは事実ではない。征服以前からイスタンブルという語が用いられ、20世紀までコンスタンティノープルという名も使われた。町は複数の名前を持っていたのである。

その後、オスマン帝国は東ヨーロッパや西アジア、それに地中海南岸に領土を拡大し、言語や宗教、習慣や風習の異なるさまざまな人々が居住する領域を比較的ゆるやかに統治した。

■ ■ ■ イスラームの文化 ■ ■ ■

一口にイスラームの文化と言っても、地域や時代によってその様相は異なる。単純に一枚岩の文化を想定せず、共通点と相違点を見極めることが重要だ。例えば、信仰と儀礼に不可欠の礼拝堂である**モスク**は、ムスリムの居住地のどこにでもあるが、その建築形式や建材と装飾はさまざまである。番組の映像からわかるように、オスマン帝国とサファヴィー朝時代のモスクはずいぶん異なる外観と装飾を持っている。偶像崇拝を禁止するという教義はどこでも変わらないが、文字をデザインする書道の流儀は多様だし、抽象的で幾何学的な**アラベスク**と呼ばれる文様も、地域や時代によってさまざまなデザインがある。番組を見ながら、ムスリムの生み出した文化の豊かさと多様性を体感してほしい。

■ ■ ■ ムスリムの諸国家 ■ ■ ■

16～17世紀には、イラン高原に**サファヴィー朝**、南アジアに**ムガル帝国**というムスリム王朝が成立し、オスマン帝国と並んで、大いに繁栄を享受した。ムスリムが政治権力を握るという点で平等ではないが、多様な人々の信仰や生活を可能な限りそのまま受け入れて統治を行ったところに繁栄の秘密があった。

また、周辺のすぐれた文化を柔軟に受け入れ、それを地域の文化と融合させてさらに発展させた点も、これらの諸国家に共通する特徴である。例えば、番組で紹介されるファテープル・シークリーの建物に見られるイスラームとインドの建築文化の融合はその例である。ヨーロッパ諸国による世界各地への進出によって中東・西アジアの地理的な優位性が失われる18世紀には、ムスリム諸国家の繁栄には陰りがみえてくる。

考えてみよう 調べてみよう

- オスマン帝国が繁栄した16世紀のヨーロッパにおける宗教の状況はどのようなものだっただろう。オスマン帝国における宗教の状況と比べてみよう。
- モスクに必ずあるものは何だろう。また、オスマン帝国とサファヴィー朝のモスクは、どこがどのように異なっているだろう。
- フェルメールの作品を調べ、そこに**絨毯**がどれだけ現れ、どのように使われているかを確認してみよう。また、なぜそのような使われたのかを考えてみよう。